

■ OnAir 1500 ユーザーレポート

株式会社 J-WAVE 様

OnAir 1500 - 12



ワンマン仕様のゼロ・スタジオを OnAir 1500 で新設



株式会社 J-WAVE
放送技術局 放送技術部
吉田 興司

ゼロ・スタジオ

弊社は今年10月で開局から25周年を迎え、新たに生放送用スタジオを増設しました。弊社としては初となるワンマンスタジオであり、ラジオの原点回帰と言えるスタイルなので「ゼロ・スタジオ」と名付けられました。今回のキーワードは「あえて」。番組自体も「あえて」月～日の帯番組のみで使用というものです。

増設の経緯

弊社の生放送は、ナビゲーター (DJ)、ミキサー、ディレクター、アシスタントディレクターの最低でも4名体制で、ワイド番組などはこれにプロデューサーとアシスタントディレクターが複数名、その他構成作家等も加わり、総勢10名程度の大所帯となります。このような大所帯の制作体制を何とかしたいという話は、以前から出ていましたが、ようやく今年10月からワンマン的な番組を導入するという具体的な話が決定しました。今やパソコンベースの編集が一般的になり、利用頻度が低くなっていた編集室を使って、新たにスタジオを造ることにしました。とに

かくタイトなスケジュールなので、音声卓については、確実に納品が間に合い、ナビゲーターが怯まないよう見た目はコンパクト、しかも信頼性が高くかつ価格はリーズナブルという条件で絞りこみ、「あえて」STUDERで最小の OnAir 1500 を選びました。

改修工事

編集室2部屋の壁を撤去して1つのスペースとして、サブの無いスタジオに変更しました。床はフリーアクセスですので遮音性能は期待できませんでしたが、今までとは違う番組制作スタイルになるので、ライブ感を出すという屁理屈で「あえて」そのままです。テーブルについても、ナビゲーターの手元に全てのものを集約したく、形状はU型が理想的でしたが、出入口を考えるとJ型にしかできず、「あえて」J-WAVEのJ型としました。また、圧迫感を感じない様に高さのあるラック等は置かず、液晶モニター類や音声卓も、極力視界を妨げないように、テーブルに半埋めできるようにしました。OnAir 1500の6フェーダーについては、必要がない時はテーブル内に隠せるようなカラクリも考えました。

運用開始から3週間

当初、ナビゲーターだけで生放送を行うとい

う制作手法に懐疑的なところがありましたが、10月改編以降、操作や機器の問題による事故や不体裁は発生していませんし、ナビゲーターのオペレーションもみるみる上達し、今や本当にワンマンで放送しているのか?と思えるレベルに達しています。勿論、ナビゲーターのポテンシャルの高さによるところもありますが、OnAir 1500の使い勝手がジャストフィットしたところが一番大きいと思います。この番組のために、3名のナビゲーターが2週間という短い期間練習しただけで、1人でしかもミスなく生放送ができるようになっただけでも、この音声卓を導入した価値があると考えています。

最後に、実際に計画をお伝えしてから1ヶ月弱という短期間で完成することができたのも、関係各社の皆様のご協力があったからであり、改めてここに感謝申し上げます。

